

■学校経営のポイント

人(児童生徒・教職員など)に目を向ける

小島 宏

5月の教育活動は連休明けから本格的に始動する。そこで、この時点で今年度の教育課程や学校運営が円滑に動き出したかどうか確認する必要がある。

それとともに、これらにかかわっている人(主役である児童生徒、当事者である教職員、パートナーである保護者や地域住民)に目を向け、状況を把握し、必要な対応を具体的に実施する必要がある。

児童生徒の出席状況

所在不明になっている児童生徒数は1,000人を超えている事実がある。(4月20日付け朝日新聞)

そこで、各学校では、4月以降の児童生徒の出席状況について、「①正常に出席している、②健康上など明確な理由で出席にむらがある、③学校嫌いの傾向があり欠席しがちである、④不登校で出席していない、⑤所在が確認できず一度も出席していない」などの視点から明確に把握する。

その上で、教育委員会、教育相談、保護者や地域住民と協力・連携して、迅速に、具体的に対応していくことが肝要である。特に、③④は担任まかせにせず専門家の支援を得て、家庭と協力しながら学校として組織的に対応する必要がある。また、⑤については、指導要録上は「児童生徒の所在が1年以上不明である場合は、在学しない者として取り扱う」ことになっているが、関係機関等と連携して所在確認に努め、できる限りの対応をすべきである。

気になる児童生徒への対応

児童生徒の中には「①授業中立ち歩き、教室から出る、②すぐカッとなる、③友だちと遊べない、かかわれない、④何を言いたいのかよくわからない、⑤自分勝手に行動する」など気になる子がいる。

これらに対して、今までの体験や仄間を整理すると、次のような受けとめや対応をする教師がいる。

- A 悪いことは悪いこととして、厳しくしつける。
B まるっきり駄目ならいいんだけど、なまじでき

るからかえって扱いづらい。

- C 週1回通級している。その日は、私も子どもたちも落ち着いて、ホッとする。
D 頻繁にトラブルを起こして、家庭に連絡しても直らない。あの子のために学級が落ち着かない。
E Yさん、落ち着いて。深呼吸してからやっごらん。大丈夫、きつとうまくいくよ。周りの子どもたちがこんな声掛けをしている。担任の普段の対応をモデルに、子どもたちが見よう見まねでやっているのだそうだ。

◇

校長として、これらの事例を比較検討し、教師の考え方や対応としてどれが好ましいか判断し、自校の教師に対して具体的に指導することが求められる。

担任教師にとっては、たとえ、手の掛かる子どもであっても、「この子は、我が家の宝物なのです」という保護者の心情をプロ教師として受けとめ、徐々に効果の上がる対応や指導に努めたいものである。

教職員のメンタルヘルス

この時期の教職員にも様々な状況が出現する。児童生徒との関係づくり、保護者からの苦情、思うようにいかない授業展開、同僚との人間関係、家庭の事情など様々なストレスを感じているようである。

校長、副校長や教頭はサインを見逃さず、対話をし、必要な助言・支援をするとともに、関係機関を紹介するなどメンタルヘルスに意を用いたい。

保護者・地域住民との連携

学校と保護者や地域住民との関係も確認したい。学校(校長)の考え方や学校の行っていることが伝わっているか。保護者や地域住民から学校への思いや建設的な意見などが届いているか。クレームに脅えるのではなく、積極的に関係づくりを進め、学校への応援団、よきパートナーとすることである。

(こじま・ひろし=(財)教育調査研究所研究部長)

●2012年5月28日発売! 校長・副校長・教頭選考突破の力が確実につく!

2013 全国学校管理職選考 試験問題集

【編集】学校管理職研究会

A5判・約390頁/定価2940円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)